



★ 5さいTくんのママ

息子は発語もありお話は上手ですが、お友達への興味は薄く、自分本位。3才の頃は会話らしきものは成り立つものの、自分のわからないことや興味のない話は、全部自分のしたい話にもっていこうとするようなところがありました。

そんな息子の転機はころんでのSST（ソーシャルスキルトレーニング）でした。SSTで、せんせい方はもちろんそこでいっしょに学んでいるお友達に、人と関わることの面白さを教えてもらったのだと思っています。

最初の頃は、お誕生日ごっこをしていると、自分が一番最初にケーキのろうそくを吹き消したら、残りのお友達がやるのを待てずに「ぼく買い物に行ってくるよ。パーティで飲むジュースが足りなそうだから」と席を立とうとするシーンもあったようです。

SSTにはいろいろなお子さんがいるので、「ぼくってちゃんとやってるでしょ」と絶対にきちんとやりたい息子とは正反対に、言われたことの反対をするような面白いお子さんもいて、その姿を見て「ちょっとふざけるのも面白いかも」という子どもらしい心も芽生えてきました。

「ころん」のSSTは「手はおひざ」でちゃんとできる優等生がばかりが褒められるわけではありません。ちょっとふざけてみるのはいいけれど、せんせいが1回注意したら、ちゃんとけじめをつけてちゃんとする。子どもらしさも大切にしつつ、切り替えられる力も養えるSSTを通して、「いつだって一番じゃなきゃダメ、自分だけでできればOK」だった息子がときにはお友達とふざけ合ったり、譲れるようになったりしたんだと思います。

息子にとってはSSTではせんせいはもちろん、お友達もせいせいだったんだと思います。

SSTでの振り返りをもとに私がしたのは、お友達との関わりがいかに楽しいかを伝えたこと、お友達といっしょに遊べるように「～な風にいってみたら？」と誘いかたを教えたこと、うまく遊べている場面を目にしたときは上手に遊べていることを褒めたことぐらいです。

今の息子の社会性を伸ばすためには大人の手助けも必要ですが、子ども同士で遊ぶことが大切だと思います。これからもSSTで楽しむことをたくさん学んできてほしいと思っています。

